

症状から  
見つける  
犬の病気

# 「しべちがもおかしら」

歩き方がおかしい、体が傾く、けいれんする、愛犬のしべちや行動がおかしいときは、  
脳神経系の病気が疑われます。なかでも、長寿化に伴って増加しているのが「認知症」。  
早期発見が大切なので、若いうちから知識をもっておきたいですね。



## 老齢期になると 増えてくる 犬の「認知症」とは？



脳神経系の病気のなかで、とくに注目したいのが「認知症」です。人と同様、長寿化に伴って、近年、増加しています。

### 症状 単なる老化と 見過ごしてはならない...

寝てばかりいる、目や耳が衰えてきた、反応が鈍い...。もう年だからと、単なる老化と見過ごしてしまいがち。次第に「夜鳴き」や「徘徊」「旋回運動」など、認知症特有の異常な行動が目立ってくることも。なかでも夜鳴きは、家族の睡眠不足や近所迷惑を招き、飼い主さんを最も困らせる症状の一つです。

### 原因 脳のβ-アミロイドが 蓄積して、脳の機能が低下

犬の認知症には、「血管障害性」のもと、人のアルツハイマー型認知症に似たものがあります。後者は脳にβアミロイドというタンパク質が蓄積し「老人斑」を作り、脳の機能を低下させると考えられています。詳しくことはわかりませんが、人のアルツハイマー型認知症の場合、βアミロイドの蓄積による老人斑以外に、リン酸タウという異常タンパク質の蓄積や脳の萎縮が見られますが、犬の脳にはこれらの症状が見られず、アルツハイマー型の前段階と考えられています。



### 【認知症チェックリスト】

- 名前を呼んでも反応がない
- よく寝て、よく食べて、下痢もせず痩せてくる
- 昼間は寝て過ごし、夜中や明け方に意味もなく鳴く
- 狭い所に入りたがり、行き止まると後退できない
- とぼとぼ歩き、旋回運動(円を描くように歩く)をする
- 不適切な場所での排泄や尿失禁をする
- 学習した行動や習慣的な行動ができなくなる
- 視力も聴力も失い、異常ににおいを嗅ぐ
- 飼い主も見分けられず、何事にも無反応



### 対策

#### ある程度の治療や予防は可能

かつては、認知症は老化によるもので、治療や予防はできないとされていました。最近では、ある程度の対策は講じられるようになってきています。そのためにも、できるだけ早く気づいてあげることが大切です。

#### ① 不飽和脂肪酸(DHA、EPAなど)の摂取

DHAやEPAなどの青魚に多く含まれる不飽和脂肪酸が、夜鳴きや徘徊などの認知症の改善に効果があるとされています。サプリメントや週に数回の青魚を使った食事などで、認知症の予防や症状緩和の対策を。



#### ③ 刺激のある生活をさせる

声をかけたりスキンシップをしたり、「おすわり」や「待て」などの訓練を続けたり、愛犬にできるだけ刺激のある生活を送らせましょう。



#### ④ 筋力を維持する

動けなくなると認知症が進みやすくなります。日頃から意識して筋力を維持することも大切です。老犬だからと運動をやめてしまわず、かかりつけの獣医師に相談しながら、適度なお散歩を欠かさず。



### 認知症に かかりやすいのは こんな犬!

#### 13歳頃から注意!

13歳頃から始め、15~16歳がピーク。寿命の短い大型犬では、7~8歳から注意して。

#### 日本犬系犬種に多く発症

洋犬もなりますが、柴犬や日本犬系雑種に多く発症します。日本犬系の認知症の犬を調べたところ、血中の不飽和脂肪酸量が著しく低下していることが判明。日本犬は元来、魚主体の食生活を送ってきたため、魚由来の不飽和脂肪酸を多く必要とする体のしくみになっているのに、肉主体のドッグフード食になって、摂取量が減ったのが原因ではないかと考えられています。



#### 屋外飼育のほうがなりやすい

飼育状況や生活環境も影響します。つねに飼い主とのスキンシップがある室内飼育犬に比べ、屋外飼育犬は刺激が少なく、脳の老化が進みやすいようです。



### 若い犬でも こんな症状が見られたら、 脳神経系の病気かも?



異常なしぐさが見られる脳神経系の病気は、認知症だけではありません。若い犬でも発症するので油断しない。

#### 首が傾き、嘔吐する「斜頸」

首が片方に傾いたままになるのが「斜頸」で、立てられず横転したり、嘔吐や眼球が勝手に揺れ動く眼振が見られることも。内耳の前庭部(半規管と蝸牛の間)の障害によつて起こる症状で、内耳炎、脳炎、脳腫瘍などが原因として考えられます。老齢期に発症するものは原因不明のことも多いです。

#### けいれんや硬直を繰り返す「てんかん」

体が突然けいれんしたり、硬直したり、意識がもつろうとしたりする「てんかん」発作。脳炎などの病気や外傷によるものと原因不明のものがあります。

#### 患部の部位によつて症状が多様な「脳腫瘍」

腫瘍が脳のどの部位にできるかによつて症状が異なります。てんかん様発作や斜頸、旋回運動、運動失調、眼振、顔面まひなどが見られることもあれば、目立った症状が現れないこともあります。